

第684回:青嵐過ぎ去る

仕事柄、中国に関する読み物に接する機会が多く、わが駄文も含め、玉石混交の作品には慣れているが、内容よりも、ちょっとした表記方法などの枝葉末節が気になるのは、馬齢を重ねてきた所為か？

例えば、習近平主席の実父・習仲勲(元副首相)は20年前に88歳で亡くなり、実母の斉心女史は95歳で存命中。習主席の実父はまだ歴史上の人物にはなっていないので、「習仲勲氏」と書いても、「故習仲勲」と呼んでも構わないが、既に亡くなっていることを誰もが知っている人に対して、「故吉田松陰」、「故毛沢東」と表記するのは明らかにおかしい。そもそも歴史上の人物として評価が確立している人を「西郷隆盛氏」、「鄧小平氏」などと呼称する文章を見ると鶏皮疙瘩(ジピーガーダー、鳥肌が立つ)になる筆者がおかしいのでせうか？

昨日逝去された石原慎太郎・元都知事、元運輸相に対しては「石原さん」、もしくは「石原氏」と呼ぶべきだろう。でも「さん」だと少し馴れ馴れしすぎるような気がするので、こんなときは「氏」が無難かな。むかし、さるパーティの席で石原さんの訶咳に接したことがあるが、OB会の席だったので、同氏はボクの名刺を見て、「杉野君」と呼び、筆者は「先輩」とお呼びした。「中国駐在とは大変だね」と云われたので、「志願兵ではなく、徴兵であります」と答え、石原先輩がにやりと笑ってくれたことを覚えている。

さて、石原氏逝去につき、中国共産党系メディア「環球時報」は、第一報として次のように報じている。

据日本NHK 電視台剛剛消息、日本右翼政客石原慎太郎2月1日去世，終年89歲。上世紀70年代、石原慎太郎曾与其他右翼勢力一起組建右翼政治团体“青嵐会”、并資助日本右翼青年在釣魚島上建造灯塔(以下略)

日本NHKの直近報道によると、日本の右翼政客(注)・石原慎太郎が2月1日に亡くなった、享年89歳。20世紀の70年代に同氏は他の右翼勢力と共同で、右翼政治団体“青嵐会”を結成し、日本の右翼青年が魚釣島に灯台を建設する際に資金援助を行った(以下略) (注)政治屋

青嵐会結成のイキサツについては、同氏の著書「国家なる幻影 わが政治への反回想(文春文庫)」に詳しく書かれてある。ときは、田中角栄内閣が成立し、田中首相・大平外相コンビが自民党の反対派を押し切り、日中国交回復を強行した翌年の1973年。

自民党若手議員の中で、共産化された中国に対する田中内閣の過剰の思いやりと、田中“金権”政権に対する反発が強まり、体制内の革新を目指す政策集団を立ち上げることになった。

同氏によれば、政策集団の名前を付けるに及んで、“〇〇同志会”、“自由改革〇〇”など、冴えない名前しか出てこないの、命名を作家の石原氏に一任することになり、そこで彼が“青嵐会”を提出したと云う。

石原氏によると、会合で、「青嵐とは何のことだね」、との質問が出たので、

「青嵐とは寒冷前線のことで、夏に激しく夕立を降らせて、世の中を爽やかに変えて過ぎる嵐のことです」と答えたら、リーダー格の故渡辺美智雄氏が、例のずうずう弁に近い栃木弁で、

「なるほど、ああこれだな。訳のわからぬ奴に聞かれたら、石原君がいった通り教えてやれば、学のある政治家だと思われるわな。この名前しかないな、これにしよう」といってくれ、即決となったそう。

結成に当たっては、石原氏の提案で会員名簿に血判状を捺すなどの蛮勇事件もあって、当時の青嵐会のことを日本国内で、若手のタカ派集団と批判的に呼ぶ声が強かった。もちろん青嵐会は中国からも、さん

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

ざん批判されたものだが、このハナシには続きがある。

日中国交は回復したものの、喫緊の issue である在外公館設置・運輸・通商などの各論は、交渉の緒に就いたばかり。あのころ、日中間で最大の懸案事項は「航空協定」の締結であり、すったもんだのあげく協定は青嵐会をはじめとする自民党保守派／台湾擁護派の抵抗にもかかわらず、74年に締結された。

北京は大喜びだ。航空協定が締結された直後、日本の財界人グループを迎えた周恩来首相は、いかにも満足げに「これで日中間の問題は全て解決した。われわれは、今後いかなる日本人をも、もろ手を挙げて歓迎します」と挨拶した。

いつの時代にも阿諛追従を得意とする輩はいる。この時も、さるメンバーが、中国への諂いを込めて、「あの青嵐会も歓迎しますか？」と、わざわざ質したら、周恩来は莞爾として、「もちろん、彼らの訪中を歓迎し、身の安全は私が保障します。私は珍しく勇気のある彼らが大好きです。もし私が日本の政治家なら彼らと同じことをしたでしょう。それに誰が命名したか知りませんが、中国語で“青嵐”とは大変格調高く、美しい言葉です」と答えたという。

この話は石原氏が日本商工会議所会頭だった永野重雄氏と、大東文化大学の学長をつとめた香坂順一氏の2つのルートから、別の機会に聞いたというから実話のようだ。

2月2日の毎日新聞は外電を紹介し、石原氏を中国・環球時報が「政治屋(政客)」、韓国・聯合ニュースは「極右の妄言製造器」と呼んだとしている。中国語で「政治家」は敬称、「政客」は蔑称である。

毎日新聞によると、台湾外交部は「わが国の重要な友人であり、長年にわたって台湾支持を堅持してきた」と高く評価し、「心からの哀悼」を表明している。

中国、韓国、台湾の反応は、これまでの歴史的経緯から見れば想定内の反応ではあるが、三者の知的水準も大いに影響しているということだろう。「周恩来語録(秋元書房)」を読むと、周恩来は「佐藤反動内閣」や「宮本修正主義集団」などと呼び、日本を厳しく批判しているが、罵倒はしていない。この辺が“戦狼外交”のスポークスマンたちと周恩来の差で、大国の大人であるかどうかのリトマス試験紙となるだろう。

韓国の論調は「またかよ！」てな具合で、評価には値しないが、中国は北京オリパラを間近に控え、無用な日中の摩擦は控えたいようで、ぎりぎり「右翼政客」の表現に止めているのが、はたをこがましかりなむ。

石原氏逝去につき、日本の主要日刊紙は全て読んだが、読賣新聞に掲載された芥川賞作家・西村賢太氏の寄稿がよかった。西村氏が今「本の雑誌」に連載している日記「一私小説書きの日乗」を読むと、彼がいかにも石原慎太郎氏を尊敬しているかがよくわかる。西村氏が日本最大の日刊紙である読賣新聞より依頼を受けて追悼文を寄稿したことは、彼にとって芥川賞受賞に匹敵する名誉となったに違いない。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

2022年(令和4年)2月2日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3

ご投資にあたっての注意事項

外国証券等について

・外国証券等は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き、日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

手数料等およびリスクについて

①国内株式等の手数料等およびリスクについて

・国内株式等の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2650% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 1.2650% (税込み) に相当する額が 3,300 円 (税込み) に満たない場合は 3,300 円 (税込み)、売却約定代金が 3,300 円未満の場合は別途、当社が定めた方法により算出した金額をお支払いいただきます。国内株式等を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式等は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②外国株式等の手数料等およびリスクについて

・委託取引については、売買金額 (現地における約定代金) に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 1.1000% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として 2.50% となるように設定したものです。

・外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

③債券の手数料等およびリスクについて

・非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスクおよび為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

④投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

⑤株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

・株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0880% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.400% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 4.400% (税込み) に相当する額が 2,750 円 (税込み) に満たない場合は 2,750 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。